

自転車活用の先進地の事例について

1 愛媛県における特色ある取組み

○サイクリスト受入環境の整備

- ・瀬戸内しまなみ海道に「しまなみ海道サイクリングロード」を整備
- ・外国人サイクリストのための多言語表示（英語、繁体字、ハングル）看板の整備
- ・サイクルオアシス（サイクリストのための休憩施設）を整備

平成23年度にしまなみエリアから整備が始まり、現在、県内全域でサイクリスト向け休憩所の整備を進めている。
平成30年10月12日現在、合計356か所

- ・四国一周サイクリングルートを設定し、ポータルサイト・SNS等で情報発信

○高速道路や瀬戸内の美しい島々を舞台に行うサイクリング大会の実施

- ・サイクリングしまなみ2018の開催（隔年開催）

開催日：30年10月28日（日）開催予定

大会規模：7,000人程度（4年毎に大規模大会を開催）

特徴：①高速道路を走行する日本唯一のサイクリング大会

②世界有数のサイクリングコースを使ったイベント

③しまなみ海道の絶景を堪能する多彩なコース設定

④瀬戸内の島ならではの「おもてなし」

⑤隣県（広島県）や関係市町村（今治市、尾道市等）、官民が連携した大会運営

○自転車の安全利用

- ・思いやり1.5m運動

27年から「思いやり1.5m運動」を開始。自動車等の運転手に対し、
「自転車の側方を通過するときは」1.5m以上の安全な間隔を保つ」か、
「道路事情等から安全な間隔を保つことができないときは」徐行する」ことを呼び掛けている。

2 北海道における特色ある取組み

○サイクルツーリズムの推進

- ・道内に5つのモデルコースを設定し、下記の取組みを試行。

①受け入れ環境の充実（サイクリストの休憩施設の確保など）

②情報発信・サイクリストとのコミュニケーション（HPの開設など）

③自転車走行環境の整備（案内看板や路面表示の設置など）

3 海外における特色ある取組み

○ニューヨークを舞台に行う世界最大級のサイクリングイベント

- ・TD Five Boro Bike Tour（通称：Bike New York）の開催

開催日：平成30年5月6日（日）（第41回大会）

大会規模：3万人程度

特徴：①コース内の自動車は完全に通行止めのため、自動車や歩行者を気にすることなく道路の
ど真ん中を走行可能

②巨大高層ビル群が立ち並ぶマンハッタン「6番街」やニューヨークのオアシス「セントラルパーク」、「ブルックリン」などのニューヨークの魅力を楽しむことができる特徴的なサイクリングコース

○台湾を自転車で一周するサイクリングロードの整備

- ・台湾を一周する「環島1号線」（総延長：968km）を自転車で走破するサイクリングロードを整備（平成27年12月30日開通）

・愛媛県は台湾1周を参考に、四国を自転車で1周する「サイクリングアイランド四国」の実現を目指している。

具体的な取組みとして「台湾一周・四国一周の交流協定の締結」や、四国4県が連携した台湾訪問団の受入れなどに取り組んでいる。

○ロンドンのコミュニティサイクルシステム

- ・コミュニティサイクルシステム「Santander Cycles」が整備され、ロンドン市内に11,500台以上の自転車と750か所以上の自転車貸し出しポートが設けられている。